

はじめに

この本は「話す力」を伸ばすための本です。

ところで、「話す力」ってどんな力だと思いますか？

芸人やアナウンサーみたいに上手に話せるとか、かっこいい話し方かな、と思ったかもしれませんね。

もちろんそういう「話し方」も大切だけれど、もっと大切なのは「なにを伝えるか」だと私は思っています。

「これが好き！」「これを実現したい！」など、〈イタイコト〉があるから、人はそれを伝えるために話す。つまり、「話す力」は、〈イタイコト〉を伝える力なんです。

みなさんも日々の生活の中で、「話す力」を活用しているはず。たとえば、自己紹介をする時、「キャンプに行きたい」などとおうちの人をお願いごとをする時、学級会で発表をする時など、いろいろな場面で自分の〈イタイコト〉を伝えようとしていますよね。

〈イイタイコト〉を伝えられれば、仲間が増えたり応援してもらえたりすることもあるし、世の中をよくしていくこともできる。だから私は、小学校や中学校で授業をするなどして、「話す力」を伸ばすための活動をしています。

この物語では、小学5年生のハルキ、ユウヤ、ヒマリ、エリナが、「やりたい！」「好き！」を伝えてどうしても実現したいことに出会います。それを実現させるためには「話す力」、つまりプレゼンが必要です。そこで4人は〈イイタイコト〉を伝えるための方法を学んでいきます。

ぜひ、みなさんも4人の子どもたちといっしょにプレゼンを学び、世の中を変えていきませんか。

2023年10月

たけうち あすか
竹内明日香

はじめに _____ 4

プロローグ～林間学校が中止になっちゃった～ — 8

だい しょう
第1章 みんなで流星群を見たい！

- 1 流星群がやってくる！ _____ 12
- 2 “イタイコト”、伝わってる？ _____ 16
コラム 「言い出しっぺ」が仲間を集める！ — 24
- 3 “プレゼン”の3つの要素 _____ 25
- 4 「考える」の3つのステップ _____ 29
- 5 考えるステップ①「広げる」
 ～ふくらませる！ くわしくする！～ _____ 31
- 6 考えるステップ②「深める」
 ～自分が主役！ どう思う？ どうしたい？～ — 41
- 7 考えるステップ③「選ぶ」
 ～「正しさ」よりも「好き」～ _____ 49
- 8 校長先生にプレゼン!? _____ 55

だい しょう ぼうさいしゅくはくくんれん
第2章 防災宿泊訓練もやろう！

- 1 うまくいかなかったのは、なぜ……？ — 60
- 2 学校がっこうに泊まるとには？ — 66
- コラム** 「釜石かまいしの奇跡きせき」につながったプレゼン — 70
- 3 防災宿泊訓練ぼうさいしゅくはくくんれんをやりたい！ — 71
- 4 味方みかたを見つけよう！ — 85
- 5 もう一度いちどプレゼン！ — 90

だい しょう もり
第3章 けやきの森コンテスト

- 1 リュウさんからの提案ていあん — 98
- 2 こんな裏庭うらにわ、どうする!? — 106
- 3 「伝えるつた」ために大事なことだいじ
～足あしから根ねっこ、口くちの周りまわをやわらかく～ — 110
- 4 アイデア、どう「見せるみ」？ — 123
- 5 いよいよ本番ほんばん！ — 130
- コラム** 人の心ひとを動かこかすプレゼンうご — 143

エピローグ～けやきの森もりで～ — 144

「プレゼン」の力ちからが世よの中なかを変える！ — 148

2 “イタイコト”、^{つた}伝わってる？



「えっ、^{がっこう}学校で^{ほし}星をみる会を^{かい}したいってこと？

いいわねえ、^{たの}とっても楽しそう！」

ここは^{てんもんだい}天文台のロビー。^{てんもんだい}天文台のプラネタリウムで^{ほし}星の^{かいせつじん}解説員をしているアスカさんは、^{おお}大きな^め目をもっと^{おお}大きく^{みひら}見開いて、^め目をかがやかせながら^{はなし}話を^き聞いてくれました。

「^{うちゅう}宇宙に興味をもってくれる子が^こ増えると^{わたし}私もうれしいわ。^{きょうりよく}協力できることがあったらなんでも^い言ってね」

そんなアスカさんの言葉に、エリナは話し始めました。

「私、8月の流星群の日に、星をみる会を学校の校庭でやりたいなって思っているんです！ アスカさん、協力してもらえませんか？」

エリナの話聞いたアスカさんはちょっと考えたあと、いたずらっぽく笑いながら言いました。

「流星群を見るなら、できるだけ空全体が見えるように、地平線まで見える場所が理想的なの。たしかに学校の校庭なら周りにじゃまするものもないし、広々していて星空がよく見えそうね。

……じゃあ、エリナさん、私に“プレゼン”をしてくれる？ 学校で星をみる会を実現させるためのプレゼン」



「プレゼン？」

「なにそれ？」

きょとんとする4人に向けて、アスカさんはていねいに説明を始めました。

「プレゼンというのは、なにか変化を起こしたり

人を動かすために、自分の“イイタイコト”を

だれかに伝えること。たとえば、絶滅しそうな動

物っているでしょう？ 絶滅しそうだ、大変だ！

と思っているだけではなに

も変わらない。でも、だれ

が言い出しっぺの人がいて

『絶滅しそうなトラを守ろ

う！』って言う。すると、

その人の話を聞いて心を動

かされた人がいっしょに行動する。どんどんいっ

しょに行動する人が増えていって、トラが守られ

る。そうやって世の中がよくなっていることって



たくさんあるのよ。こんなに大きなテーマじゃなくても、みんなはなにか、『これをやりたい！って言葉にしてだれかに伝えたから実現できた』っていう経験、したことない？」

アスカさんからの問いかけに、あつと声をあげてからハルキが答えました。

「伝えたからできたじゃなくて、伝えたけど



できなかったことならあるよ。

この前、体育の授業で、クラス全員でできることだったらなんでも好きなことをやっていっていわれたんだ。だからオレはキックベースがいい！って言ったんだよ。それなのに、キックベースはイヤだ、鬼ごっこがいいって言う人がいてさ。

結局は鬼ごっこになったんだよなあ……」

おも
思いだしてまたふてくされるハルキに、ヒマリ
がい かえ
が言い返しました。

「だからあ、キックベースだと力の^{ちから}弱い^{よわ}人は不利^{ひと}
なの！ ^{なか}中には^{つよ}強くけったりできない^{ひと}人もい
しょう？」

するとハルキが^ま負けじと^い言い返^{かえ}します。

「でも、^{おに}鬼ごっこだ^{あし}って、^{はや}足が^{ゆうり}速いやつが有利じゃ
ないか。キックベースは^{ぜんいん}全員が^{ぜんいん}バッターボックス
に^た立^{ぜんいん}てるんだよ。全員に^でかならず^{ばん}出番があ^{ばん}って、
^{とき}その時は^{おうえん}かならず^{おうえん}応援^{おうえん}してもら^{おうえん}えるだ^{おうえん}ろう？」

それを^き聞いて、ヒマリが^め目を^めまるく^めしました。



「えええ?! そんなふ
うに^{かんが}考^{かんが}えてたの？ ぜ
んぜんそんなこと^い言^い
てな^いかったからわ^いから
な^いかったよ……」

「だって説明するの、めんどくさかったから」
 二人のやりとりを聞いていたアスカさんが大き
 くうなずきながら言いました。

「キックベースがやりた
 い、鬼ごっこがいいって

大きな声で主張するだけ

じゃ、本当にイタイコ

トは伝わらないってわか

る、いい機会だったみた

いね。ハルキさんはみん

なのことを考えて、キックベースをやりた

おもっていた。めんどくさがらずにその理由を説

明していたら、ヒマリさんやクラスみんなも、

ちゃんと考えようと思ってくれたかもしれないよ

ね。実際、今ヒマリさんはハルキさんの話を聞い

て、それならキックベースをやってもよかったか

なって、思えたんじゃない？」



そう聞かれたヒマリは深くうなずきました。

「そんなふうにイタイコトをちゃんと伝えることができれば、相手の考えや行動を変えることができるかもしれない。仲間や味方が増えて、やりたいことを実現できるかもしれないよ」

アスカさんの言葉に、エリナも真剣な顔でうなずいてアスカさんに向かって言いました。

「私、学校で星をみる会をやりたい。そのためにアスカさんに協力してもらいたい。アスカさんを



せつとく
説得するためのプレゼンって、どうすればいいですか？」

エリナの^{しつもん}質問にアスカさんはにっこり^{わら}笑って^{こた}答えました。

「じゃあ、どうすればイイタイコトを^{つた}伝えられて
^{あいて}相手の^{こころ}心を^{うご}動かすことができるか、いっしょに^{かんが}考
えてみましょうか」

「やってみたい！」

エリナだけでなく、みんな^{はじ}初めての“プレゼン”
に、^{きょうみ}興味^{しんしん}津津々です。

ポイント

イイタイコトをちゃんと^{つた}伝えることが、
^よ世^{なか}の中を^か変える^{いっ}一歩^ぽになる。

そのために“プレゼン”がある！

「^い ^だ ^{なかま} ^{あつ} 言い出しっぺ」が仲間を集める！

「^{つた} やりたい！」を伝えて、それを^{ほんとう} 本当^{じつげん} に^{しょうがくせい} 実現させた小学生の例を紹介します。

小学^{しょうがく} 6年生^{ねんせい} のアオイさんは、^ず 図工室^{こうしつ} の^{つくえ} 机^{ふる} が古くてあちこちに^{あな} でこぼこと^{あな} 穴^あ があるため、^え 絵^か を描いていると^{かみ} 紙^{あな} に穴^あ が開いてしまうことがあるのが^き 気^{しかた} になって仕方がありませんでした。そこで「^ず 図工室^{こうしつ} の^{つくえ} 机^{ひょうめん} の^い 表面^い をきれいにしたい！」と^い 言^い ってみました、^{おな} 同じ^{かん} ように^{とも} 感じていた^{なんにん} 友だち^{なんにん} が何人もいて、^{さいしゅうてき} 最終^{がくねん} 的には^{じっし} 学年^{じっし} みんなで^{じっし} 実施^{じっし} するプロジェクトになりました。

アオイさんが^い ^だ 言い出しっぺ^{じつげん} になったことで、それを^{じつげん} 実現するために^{ひつよう} な^{きょうりやく} に^{じっこう} が^{じっこう} 必要^{じっこう} か、だれに^{じっこう} 協力^{じっこう} してもらうか、いつ^{じっこう} 実行^{じっこう} するかなどの^ぐ 具体的^{じっこうけいかく} な^{とも} 実行^{かんが} 計画^{かんが} を^{かんが} 友だち^{かんが} と^{かんが} いっしょ^{かんが} に^{かんが} 考^{かんが} えることが^{じつげん} でき^{じつげん} 、^{じつげん} 実現^{じつげん} につな^{いま} げ^{いま} る^{いま} ことが^{いま} でき^{いま} ました。今は、^{いま} すっ^{いま} かり^{いま} 表面^{ひょうめん} が^{つくえ} きれい^え になった^か 机^か で^か 絵^か を^か 描^か くことが^か でき^か ます。

「^{おも} ^{つた} 思い^な を^な 伝^{あつ} える」ことで、^な 仲間^{あつ} が^{あつ} 集^{あつ} まる^{あつ} の^{あつ} ですね。

3 “プレゼン”の3つの要素



やりたいことを実現^{じつげん}させるためにイイタイコトを伝える“プレゼン”とはどんなものなのか、アスカさんが話しはじめます。

「プレゼンには、3つの要素^{ようそ}があるの。

まずは、『**考える**』。プレゼンのテーマ^きを決めたり、イイタイコトはなにかをはっきりさせるために整理^{せいり}したりすること。

次に、『**伝える**』。これはプレゼン^きを聞いている人に届くように、声の出し方や目線などを工夫^{くふう}すること。

あとひとつが、『**見せる**』。プレゼンの内容^{ないよう}を資料^{りよう}や物などで見せること。イイタイコトが伝わりやすい印象^{いんしょう}に残る見せ方を考えて、表現^{ひょうげん}すること」

アスカさんはここまで話してから4人に向かっ
てたずねました。

「ねえ、この3つの中で土台になるいちばん大切
なことって、なんだと思う？」

エリナは首をひねってう～んと考えます。

「どれだろう……いくら内容がよくても声が小さ
くて聞こえなかったら伝わらないし、見せる資料
がわかりやすかったら、それだけで伝わるような
気もするし。3つともそれぞれ大切だよね」

アスカさんはうなずきました。

「そうね、もちろん3つが全部そろってはじめて、
プレゼンが完成するの。その中でもとくに重要な
こと、って考えてみて」

「ぼくは、『考える』だと思っな。自分がなにを
言いたいのかをちゃんと考えるってこと。アスカ
さんがさっき『プレゼンはイイタイコトを伝える
こと』って言ったよね」

ユウヤの言葉ことばにみんなが「たしかに」と感心かんしんしている
と、アスカさんが説明せつめいを続けました。

「そう、ユウヤさんの言うとおりに。プレゼンには『考える・伝える・見せる』の3つの要素ようそが必要ひつようだけれど、いちばんの土台どだいになるのが、『考える』ことなのよ」

そう言いながら、アスカさんは横よこにあったホワイトボードに大きおおさのちがう3つの箱はこが重かさなったようなものかを描かきました。

